

第3回 酒蔵ツーリズム推進協議会 開催結果

1 日 時 平成27年3月4日（水） 16:30～18:20

※詳細な日程は別紙のとおり

2 場 所 ホテル・ザ・ウェストヒルズ・水戸

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

4 あいさつ

茨城県商工労働部次長 石川和宏

- ・日本酒や酒蔵は各地域の自然や歴史、伝統・文化の中で生まれ、地域に根ざした固有の物語を有している。
- ・本協議会が、酒造業界と観光業界とのネットワークづくりの場となることはもとより、各地域の生きた情報の交換の場となり、個性あふれる日本酒や酒蔵について、訪日外国人観光客を含め、多くの方々に知っていただき楽しんでいただけるよう官民で連携し、各地域のお酒や食文化などの魅力を発信し地域活性化を図っていきたいと思っている。

観光庁観光地域振興部長 吉田雅彦

- ・今回で協議会も3回目の開催を迎えることができ、この間、新たな協議会を立ち上げた地域があるなど、全国的な拡がり、盛り上がりを見せている。
- ・昨年は外国人旅行者数1,300万人を達成し、2020年の目標である2,000万人も現実味を帯びてきている。現在、政府を挙げて国内外へのプロモーションや受入環境整備などを進めるとともに、世界に通用する魅力ある観光地域づくりに取り組んでおり、酒蔵ツーリズムがこうした取組の先進事例となるよう一層のご協力をお願いしたい。



5 議 事

(1) 平成 26 年度の取組状況について

① 茨城県（資料 1）

- ・平成 25 酒造年度全国新酒鑑評会において、11 の銘柄が金賞を受賞したことを記念し、初めて酒蔵巡りに特化したツアーを実施。大変好評だった。引き続き、酒蔵ツアーを企画・催行したい。
- ・県内産日本酒や酒蔵の魅力について、観光パンフレットや首都圏のフリーペーパーなどで積極的に PR を実施している。

②-1 観光庁（資料 2）

- ・全国各地に酒蔵ツーリズムを推進する組織が設立され、地域と一体となった盛り上がりを見せている。
- ・3 月より、成田空港周辺においてトランジット客（国際線乗継客）をターゲットとした酒蔵ツーリズムを催行。
- ・来年度の予算事業でも各地域の資源を活用した魅力ある観光地域づくりを推進。
- ・消費税免税制度の拡充、免税店の拡大に努めていく。

②-2 新潟県

- ・にいがた酒の陣…3/14, 15 に、10 年以上の実績をもつ大型試飲イベントを開催。年々来場者数が増え、県外からの来訪者も多い。
- ・世界的な旅行関係出版社「Lonely Planet」の CM が新潟県内で撮影された。（動画サイト YouTube で公開）

②-3 京都府

- ・昨年 7 月に、観光圏整備法に基づく観光圏として認定された。
- ・「海の京都酒蔵めぐり」の情報発信拠点（プラットフォーム）として、試飲用施設を開設。日本酒と地元食材の小皿（オイルサーディンなど）を組み合わせた試飲セットを有償で提供。
- ・近畿タンゴ鉄道（KTR）の観光列車「くろまつ号」において、食堂車で日本酒の飲み比べや料理の組み合わせを楽しめる「地酒コース」を提供。
- ・クルーズ船客への PR…舞鶴港において、クルーズ船の寄港時に上記のプラットフォームの出張所を開設、乗客に対し地酒の試飲を無料で提供。
- ・「和食道」イベント…世界遺産にもなった和食と日本酒を中心としたイベントの実施（2/1）

②-4 兵庫県

- ・神戸・灘地域…酒蔵スタンプラリーの実施（昨年 10/18～11/24）
スタンプラリー期間中の土日祝日に酒蔵ツアーバスを催行（14 日間）
- ・播磨地域…「酒米 山田錦のふるさと」をテーマとした地域ブランド化を推進。
- ・西宮…「西宮の日本酒で乾杯」のラジオ生中継。
日本酒について知ってもらおう講座「にしのみや日本酒学校」の開講。
- ・伊丹…「清酒発祥の地」としての PR。旧岡田家住宅でフォーラムを開催。

②-5 佐賀県鹿島市

- ・3/28、29 に「酒蔵ツーリズム 2015」を開催し、6 蔵をめぐるハシゴ酒イベントの開催。
- ・市内に温泉宿泊施設がないという弱点→隣接市の嬉野温泉と連携することで解決。

②-6 北海道

- ・後志（しりべし）…20 市町村からなる地域。観光資源に恵まれているほか、
ワイン・ウイスキー・日本酒・ビールと各種酒類の醸造に適した気候が特徴。
- ・連続テレビ小説「マッサン」と連携した新たな観光ツアーの造成
- ・後志産ワイン合うご当地グルメの開発

②-7 長野県

- ・北陸新幹線の長野～金沢間開通（3/14）にちなんだ沿線 5 県イベントの開催。
- ・北陸新幹線のファーストクラス「グランクラス」に長野県産のワインが提供。

③ 国税庁

- ・平成 26 年度の輸出金額は、過去最高の約 294 億円となった。
- ・昨年 9 月に都内で駐日大使向けの酒蔵見学を実施（12 か国 21 名参加）。
- ・日本酒を核とした産業連携による海外展開をテーマとして、「Sake シンポジウム」開催し、酒類業者やマスコミなど 250 名が参加。

④ 酒造組合

- ・インバウンド向けの酒蔵ツアー開催（27 年度はメディア向けを用いて作成中）
- ・日本酒の魅力を世界に発信するアニメーションを作成（3/6、7 放送）。

⑤ アサツーデイ・ケイ

- ・「酒サムライサポーターズクラブ」のサイト内に酒蔵ツーリズムの情報を発信。
<http://sakeworld.co.jp/tourism.html>
<https://ja-jp.facebook.com/sakesamurai>
- ・日本酒と酒蔵をセットにしたインバウンドの誘致。

⑥-1 酒サムライコーディネーター

- ・酒蔵はコンテンツとしては強いが、単体では集客が難しい。
→協議会が存在すること自体が、地域を超えた大連携にとって重要と考えている。
- ・在日外交官向けの日本酒講座の開催。

⑥-2 旅行読売

- ・旅と酒、そこにまつわる人について特集している。
(例) 3/7, 8 酒にまつわるエピソードのあるスポットを紹介。
酒好きの匠が住職との賭けに負けて作った寺など。
3月号 観光列車
5月号 東京散歩としてコラム「江戸っ子と日本酒」
7月号 地ビール特集
- ・酒造組合中央会とコラボした冊子作成「日本酒と日本文化」(日本語版/英語版)

⑥-3 シーエムワン

- ・女性層やインバウンド層を取り込むことが、今後の課題と考えている。
- ・5月に女性客をターゲットとしたイベントの開催

⑥-4 Sake Brewery Tours

- ・今後、インバウンド向けの酒蔵ツアーの需要は増加する。
- ・H26年度ツアー…海外ジャーナリストも4名参加、記事を発信している。
- ・ツアーについてTV取材(3社)…番組を視聴したことにより県内へのPR効果あり。
- ・SNSであることを意識することが需要…インパクトのあるツアーであれば、参加者自身が発信してくれる。

⑥-5 鹿児島県 (nishiko)

- ・バスツアー(6回目)、クルージングツアー(4回目)の実施。
- ・11/1を本格焼酎の日として、12年前から実施。
- ・全国で唯一、焼酎でおもてなし条例を1月に制定したところ
- ・鹿児島県のPR戦略…5S(焼酎, 桜島, 西郷さん, 温泉 spring, 新幹線)

(2) 次回協議会について

- ・平成27年度に、新潟県が事務局幹事として開催予定。(時期及び場所は未定)

○酒蔵ツアー及びエクスカーショ

- ・協議会の開催に合わせ、茨城県内の4つの酒蔵などを巡るツアー及びエクスカーショを実施した。



廣瀬商店（白菊）



府中誉（渡舟）



須藤本家（郷の誉）



吉久保酒造（一品）